

13 農 業

< 目 次 >

教科「農業」における評価の改善	p 1 ~ 6
(1) 教科目標、評価の観点及びその趣旨 (国立教育政策所研究所教育課程研究センターからの提示)	
(2) 各科目の評価の観点を趣旨 (国立教育政策所研究所教育課程研究センターからの提示)	
(3) 教科「農業」の目標から見た評価の観点	
(4) 各学校における評価活動の改善に関する具体的手順	
(5) 指導と評価計画の作成手順の流れ	
評価規準表	p 7 ~ 1 7
(1) 評価規準表の構成	
(2) 評価規準表	
指導と評価の年間計画	p 1 8 ~ 2 2
(1) 指導と評価の年間計画表の構成	
(2) 年間計画表	
学習指導案	p 2 3 ~ 2 6
(1) 学習指導案の様式	
(2) 学習指導案 1 , 2	
評価から評定を算出する方法	p 2 7 ~ 2 9
(1) 単元ごとの観点別学習状況の総括	
(2) 学期末の観点別学習状況の総括	
(3) 学年末の観点別学習状況の総括	
評価規準作成における参考	p 3 0 ~ 3 3
(1) 具体の評価規準の作成にあたっての留意点と表現方法	
(2) 観点別評価における評価方法	
ア 評価の四観点と評価方法の関係	
イ 目標に準拠した評価（いわゆる絶対評価）の技法	
参考文献	p 3 4

教科「農業」における評価の改善（観点別評価規準の作成にむけて）

（１）教科目標、評価の観点及びその趣旨（研究指定校に示された資料）

1 教科目標

農業の各分野に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、農業の社会的な意義や役割を理解させるとともに、農業に関する諸課題を主体的、合理的に解決し、農業の充実と社会の発展を図る創造的、実践的な能力と態度を育てる。

2 評価の観点及び趣旨

関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
農業に関する諸問題について関心をもち、その改善・向上を目指して意欲的に取り組むとともに、創造的、実践的な態度を身に付けている。	農業に関する諸問題の解決を目指して自ら思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を活用して適切に判断し、創意工夫する能力を身に付けている。	農業の各分野に関する基礎的・基本的な技術を身に付け、実際の仕事を合理的に計画し適切に処理するとともに、その成果を的確に表現する。	農業の各分野に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、農業の意義や役割を理解している。

（２）各科目の評価の観点の趣旨（研究指定校に示された資料）

科目	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
農業科学基礎	農業生物の育成や農業の社会的な役割など農業と農業学習に興味・関心をもち、農業生物の育成に関するプロジェクトを主体的に行うなど課題の探究に意欲的に取り組むとともに、その課題を科学的にとらえて合理的に解決しようとする実践的な態度を身に付けている。	農業生物の育成の記録を分析するなど課題を多面的に考察し、農業に関する基礎的な知識と技術を活用するなどして課題を適切に判断するとともに、その課題を科学的にとらえて合理的に解決する実践的な能力を身に付けている。	農業生物の育成や生産物の利用など農業に関する基礎的な技術を身に付け、プロジェクトを適切に実施するとともに、栽培や飼育の観察や考察などを正確に表現する。	農業生物の育成や生産物の利用など農業に関する基礎的な知識を身に付け、農業生物の特性と生育環境の関係や育成の過程を理解している。
環境科学基	環境の保全・創造、農業生物の育成や環境と人間生活の関係など環境と環境学習に興味・関心をもち、農業生物の育成に関するプロジ	環境調査の記録や農業生物の育成の記録を分析するなど課題を多面的に考察し、環境と農業に関する基礎的な知識と技術を活用するなどして課題を	環境の保全・創造や農業生物の育成など環境と農業に関する基礎的な技術を身に付け、プロジェクトを適切に実施するとともに、栽培の観察や考察などを正	環境の保全・創造や農業生物の育成など環境と農業に関する基礎的な知識を身に付け、環境と人間生活の関係や農業生物の特性と栽培環境の関係を理解している。

礎	<p>エクトを主体的に行うなど課題の探究に意欲的に取り組むとともに、その課題を科学的にとらえて合理的に解決しようとする実践的な態度を身に付けている。</p>	<p>適切に判断するとともに、その課題を科学的にとらえて合理的に解決する実践的な能力を身に付けている。</p>	<p>確に表現する。</p>	
作物	<p>栽培技術の仕組みや作物生産の役割など作物の栽培と経営に関心をもち、生育状態に応じた栽培管理を行うなど作物生産に意欲的に取り組むとともに、栽培管理や作業体系を改善するなど品質と生産性の向上を図ろうとする創造的、実践的な態度を身に付けている。</p>	<p>作物の特性と栽培環境などから作物の生育状態を多面的に考察し、その生育状態に応じた栽培管理を科学的に判断するとともに、栽培管理や作業体系を改善するなど品質と生産性の向上を図る創造的、実践的な能力を身に付けている。</p>	<p>作物の生育と環境の調節及び作物栽培の計画、管理、評価など作物の栽培と経営に関する基本的、体系的な技術を身に付け、育苗、中耕やかん排水など栽培の計画、管理、評価を適切に実施するとともに、作物の生育診断や栽培技術の評価など栽培や経営の状況を的確に表現する。</p>	<p>作物の生育と環境の調節及び作物栽培の計画、管理、評価など作物の栽培と経営に関する基本的、体系的な知識を身に付け、作物の栽培的、経営的特性と栽培技術の仕組みを理解している。</p>
食品製造	<p>食品加工の原理や食品産業の役割など食品の製造に関心をもち、原材料の加工適性や食品特性に応じた食品の製造や貯蔵に意欲的に取り組むとともに、食品加工の方法、衛生管理や作業体系を改善するなど品質と生産性の向上を図ろうとする創造的、実践的な態度を身に付けている。</p>	<p>原材料の加工適性や食品特性に応じた食品加工の方法を多面的に考察し、食品加工の方法に応じた機械の利用や品質管理を科学的に判断するとともに、食品加工の方法、衛生管理や作業体系を改善するなど品質と生産性の向上を図る創造的、実践的な能力を身に付けている。</p>	<p>原材料の処理、食品加工、製造用機器の取扱いなど食品の製造と貯蔵に関する基本的、体系的な技術を身に付け、食品の製造工程と生産環境の管理を適切に実施するとともに、食品の品質管理や工程管理など製造や貯蔵の状況を的確に表現する。</p>	<p>原材料の処理、食品加工、製造用機器の取扱いなど食品の製造と貯蔵に関する基本的、体系的な知識を身に付け、原材料の加工適性、食品特性と加工原理を理解している。</p>
造園計画	<p>造園空間の創造や緑地環境の役割など造園の計画と設計に関心をもち、正確で美しい設計図の作成など造園の計</p>	<p>造園の目的や周囲の環境条件を多面的に考察し、目的、環境条件や緑化材料に応じた設計を合理的に判断するとともに、快</p>	<p>造園製図、植栽のデザイン、環境条件の調査など造園の計画・設計に関する基本的、体系的な技術を身に付け、地割、動線や</p>	<p>造園製図、植栽のデザイン、環境条件の調査など造園の計画・設計に関する基本的、体系的な知識を身に付</p>

	画と設計に意欲的に取り組むとともに、快適な住宅庭園や生態系を重視した自然公園など目的や環境に応じた造園空間を構想しようとする創造的、実践的な態度を身に付けている。	適な住宅庭園や生態系を重視した自然公園など目的や環境に応じた造園空間を構想する創造的、実践的な能力を身に付けている。	配植の重点など造園の計画を適切に実施するとともに、造園の計画や設計内容を造園製図や造園デザインで正確に美しく表現する。	調節など緑地の機能を理解している。
植物バイオテクノロジー	園芸作物の品質の改善など植物に関するバイオテクノロジーに関心をもち、植物の増殖能を活用した組織培養などに意欲的に取り組むとともに、園芸作物の育種など植物バイオテクノロジーを農業の各分野で応用しようとする創造的、実践的な態度を身に付けている。	植物のもつ分化全能性や遺伝情報の伝達機能の利用を多面的に考察し、有用物質を効率的に生産するための培養方法や培養素材について科学的に判断するとともに、園芸作物の育種など植物バイオテクノロジーを農業の各分野で応用する創造的、実践的な能力を身に付けている。	無菌操作、培地の調製、組織培養や順化など植物バイオテクノロジーに関する基本的、体系的な技術を身に付け、利便性と安全性の追求を適切に実施するとともに、無菌の条件や組織培養の条件を正確に表現する。	無菌操作、培地の調製、組織培養や順化など植物バイオテクノロジーの基本的、体系的な知識を身に付け、植物のもつ分化全能性や遺伝情報の伝達機能などの特性とバイオテクノロジーの技術的な特質を理解している。
生物活用	園芸活動を活用した交流活動など園芸作物や社会動物の活用に関心をもち、園芸作物の栽培、園芸デザインとそれらを活用した交流活動に意欲的に取り組むとともに、園芸作物や社会動物を活用して生活の質の向上や健康の改善を図ろうとする創造的、実践的な態度を身に付けている。	園芸活動や社会動物を活用した交流活動を多面的に考察し、交流活動の支援、援助の方法について合理的に判断するとともに、園芸作物や社会動物を活用して生活の質の向上や健康の改善を図る創造的、実践的な能力を身に付けている。	交流活動や園芸セラピーなど園芸作物と社会動物の活用に関する基本的、体系的な技術を身に付け、栽培や飼育など交流活動の準備を適切に実施するとともに、交流活動のプログラムを的確に表現する。	交流活動や園芸セラピーなど園芸作物と社会動物の活用に関する基本的、体系的な知識を身に付け、園芸作物と社会動物の特性及び園芸と動物を活用したセラピーの特質を理解している。

(3) 教科「農業」の目標からみた評価の観点

新学習指導要領に示された教科「農業」の目標は、平成13年4月27日付の通知に示された「各教科の評価の観点及びその趣旨」との整合性が図られた点が特徴である。

教科「農業」の目標

農業の各分野に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、農業の社会的な意義や技能・表現の趣旨
知識・理解の趣旨
役割を理解させるとともに、農業に関する諸課題を主体的、合理的に解決し、農業の充実知識・理解の趣旨 思考・判断の趣旨
 と社会の発展を図る創造的、実践的な能力と態度を育てる。
関心・意欲・態度の趣旨

教科	観 点	趣 旨
農 業	関心・意欲 態度	農業に関する諸問題について関心を持ち、その改善・向上を目指して意欲的に取り組むとともに、創造的、実践的な態度を身に付けている。
	思考・判断	農業に関する諸問題の解決を目指して自ら思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を活用して適切に判断し、創意工夫する能力を身に付けている。
	技能・表現	農業の各分野に関する基礎的・基本的な技術を身に付け、実際の仕事を合理的に計画し、適切に処理するとともに、その成果を的確に表現する。
	知識・理解	農業の各分野に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、農業の意義や役割を理解している。

(4) 各学校における評価活動の改善に関する具体的手順

各学校においては、評価の見直しを全職員の共通理解のもとに進めていく必要がある。

教育課程審議会答申第2節5の「学校全体としての評価の取組」において、以下のように述べられている。

(1) 評価活動の充実のためには、各学校において日ごろから教員間の共通理解を図り、各教員が評価についての力量を高め、一体となって評価方法の改善充実に努めることが必要である。また、目標に準拠した評価を重視する上では、各学校における評価の根拠が明確で信頼でき、保護者や児童生徒に説明できるものであることが重要である。

各学校においては、各教員が児童生徒の学習の状況を日頃からどのように把握し、指導に生かしていくかなど、学校としての評価の方針、方法、体制などについて、校長のリーダーシップの下、教員間の共通理解を図り、一体となって取り組むことが不可欠である。

(2) 教員が評価についての考え方を深め、評価方法を改善したり、その結果を指導に生かしたりするためには、教員一人一人が教育の専門職として自己研鑽に努めるとともに、学校全体で校内研究・研修を通じて評価についての力量を高めることが重要である。

この答申を踏まえ、農業高校における評価活動の充実に向けた手順を示す。

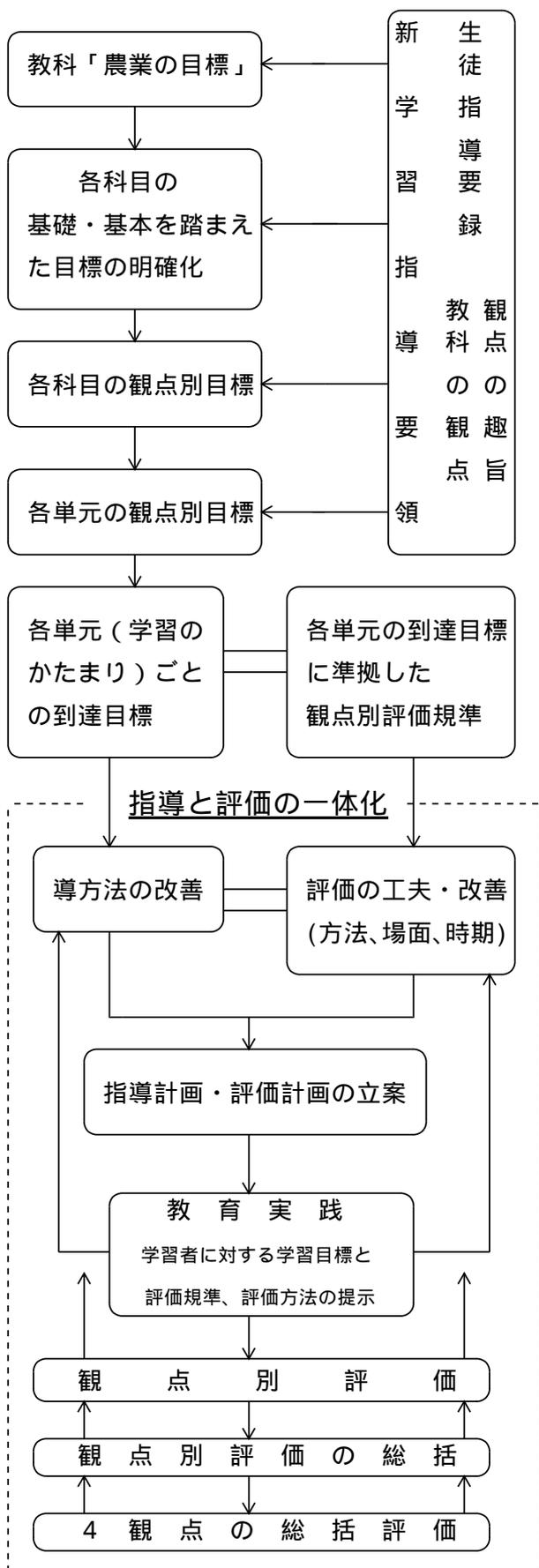
次ページに、学習指導要領の分析から総括的評価に至るまでの一連の評価活動の流れを示し、その中で個々の評価活動の位置づけを明らかにした。学習指導要領にはその目標が示されており、指導計画を立てる際には単元のねらいとしての目標をあげているはずである。したがって、それらの目標が評価の対象（目標に準拠）になるのであり、それを「評価規準」と呼んでいる。

観点別評価規準の作成においては、観点間のバランスをとるために、単元の目標を細分化したり、補うことが必要である。評価規準の示す範囲が大きすぎると、評価が曖昧になり、また逆に小さすぎると、評価の回数が多くなり、煩雑である。どの程度の数に目標を具体化して評価規準にするかは、科目や観点の性格、単元の大小によって異なる。

国立教育政策研究所から出された評価規準は、学習指導要領の内容のまとまりごとに設けられたものであり、研究指定校での試みを踏まえて、単元の評価に関する事例が示されている。このことは、単元レベルでの評価規準を具体的に示すのが最も実際的であることを示唆している。

以上のことを踏まえて、ここでは、＜指導と評価計画の作成手順の流れ＞として各学校における評価規準の作成から評価の実践さらには評価の総括にいたる流れを示した。この手順に従って評価の改善を行っていく場合に想定される、評価規準表および年間学習指導計画表、さらには学習指導案を科目「農業科学基礎」を例にとって作成し、実際の教育現場で活用できるように配慮した。

(5) 指導と評価計画の作成手順の流れ



学習指導要領等における教科「農業」の目標を構成要素ごとに分析する。

学習指導要領における科目の目標を構成要素ごとに分析する。

4つの観点から見た科目の目標を明確化する。

各単元ごとに、4観点別目標を明確化する。

内容のまとめり（学習指導要領解説の「内容」及び「内容の取り扱い」）ごとの到達目標を洗い出した上で観点別評価規準を作成する。

（到達目標に準拠していること）

指導と評価の一体化を図るための事後検証のため、評価の方法、評価の場面、評価の時期を必ず設定する。

学習指導案（学習の指導と評価案）作成のため、指導項目ごとの目標を明確化し、それに準拠した評価規準を具体的に設定する。

指導と評価の一体化を図るため教育実践における評価活動の中で、指導の改善に生かす。

（上向き矢印）

評価の時期を学期末及び学年末とし総括方法は各校や各科の工夫、統一による。観点別に総括する。

4観点の総括方法も、各校の工夫、統一による。

4 指導項目ごとの目標に準拠した評価規準と評価計画

(1) 農業と人間生活

指導項目 (大単元)	到達目標	評価規準				単元 (農文教)	単元 (実教)	時間	観点	評価計画(具体的評価規準)	番号
		a	b	c	d						
ア 農業 と食料供給	我が国と他 国の農業を土 地利用の形態 生産方法と技 術等の観点か ら対比して理 解させ、農業 と生産技術及 び食料供給に 興味と関心を もち、我が国 の農業の課題 について考え ることができる。	我が国の農業 や食品産業に 関心をもち、 農業生産や食 料消費の特徴 の解明に意欲 的に取り組む とともに、我 が国の食料自 給の課題を探 究しようとし る実践的な態 度を身に付け ている。	我が国の農業 や食品産業を 多面的に考察 し、生産と消 費の関係から 農業の状況を 適切に判断す るとともに、 我が国の食料 自給の課題を 探究する実践 的な能力を身 に付けている。	統計資料など から我が国の 農業生産や食 料消費の特徴 を読み取り、 その特徴や考 察を正確に表 現する。	農業と食料供 給に関する知 識を身に付け 、我が国の農 業生産から食 料消費までの 仕組みの概要 と食料消費の 特徴を理解し ている。	第1章 1 私た ちの暮らしと 農業	第4章 農業と 自然・社会と のかかわり	6	a わが国の農業・農家の現状や食料自給について関心をもち、その特徴や問題点を考えようとしている。 a 人間の衣食住と農業について関心をもち、世界における農業の移り変わりを考えようとする。 b わが国の農業・農家の現状や食料自給について調べその結果から問題点を明確にすることができる。 b 食品産業の現状について調べ、食生活のあり方についての問題点を明確にすることができる。 b 食料供給の危機について調べ、その結果から問題点を明確にすることができる。 c 統計資料などからわが国および世界の農業の現状や食料問題について調べ、表やグラフにまとめることができる。 d わが国や世界の農業の現状や食料問題についての知識を身に付け、その特徴や問題点を理解している。	1 2 3 4 5 6 7	
イ 農業 と環境保全	農業と生態系 や物質循環の 関係を理解し 、農業の環境 保全機能と負 荷の軽減に関 心をもち、農 業生産の課題 について考え ることができる。	農業の環境保 全機能などに 関心をもち、 環境保全機能 の活用や環境 負荷の低減に 意欲的に取り 組むとともに 、農業生産と 環境保全の課 題を探究しよ うとする実践 的な態度を身 に付けている。	農業の環境保 全機能や環境 負荷を多面的 に考察し、環 境保全機能の 活用や環境負 荷の低減を適 切に判断する とともに、農 業生産と環境 保全の課題を 探究する実践 的な能力を身 に付けている。	実態調査など から農業の環 境保全機能や 環境負荷を読 み取り、その 観察や考察を 正確に表現す る。	農業と環境保 全に関する知 識を身に付け 、農業と自然 環境の関係及 び農業と物質 循環のかかわ りを理解して いる。	第5章 1 地域 の自然環境と 地域農業	我が国 の農業と食 料供給	4	a 農業の環境保全機能について関心をもち、調べようとする。 a 地球規模での環境問題が、顕在化していることに関心をもち、その現状を調べようとしている。 b 自然生態系と農業生態系の違いについて調べ、農業生産の特徴を明らかにすることができる。 b 農業の環境保全機能について、地域の実態を調査し、その結果を表などにまとめることができる。 d 我が国の農業技術とそれを支える自然環境の特徴を理解し、その知識を身につけている。 d 農業の環境保全機能や多面的な役割について地域農業の実態を通して具体的に理解している。 d 環境を悪化させない農業技術を理解し、環境保全型農業についての知識を身に付けている。	8 9 10 11 12 13 14	
ウ 農業の 多面的な 役割	農業には、 食料供給や環 境保全機能と ともに、景観 形成や保健休 養などのアメ ニティ保全機 能と農業生物 などを活用し た対人サービ スの機能など 多面的な役割	農業と人間生 活のかかわり について関心 をもち、農業 が多面的な役 割を果たす上 での課題を探 究しようとし る実践的な態 度を身に付け ている。	農業と人間生 活のかかわり を多面的に考 察し、農業が 多面的な役割 を果たす上 での課題を探 究する実践的 な能力を身に 付けている。	実態調査など から農業と人 間生活の多様 なかわりを読 み取り、その 観察や考察を 正確に表現す る。	農業のアメリ カニティ保全 機能や対人サ ービス機能な どの知識を身 に付け、農業 には多面的な 役割があるこ とを理解して いる。	第5章 2 わが 国と世界の食 料・農業・農 村	農業と 農村の役割	4	a 農業の役割と人間生活とのかかわりについて、自分の生活と結びつけて考えようとしている。 a 地域農業のすがたと役割について関心をもち、その実態について調べようとしている。 a 農業と農村の役割について関心をもち、これからの農業と農村のあり方について見いだそうとしている。 a 農業と人間生活の関わりについて関心をもち、多面的な役割を見いだそうとしている。 b 農業と人間生活のかかわりについて考察し、農業が果たす多面的な役割を明らかにすることができる。 b 農業と人間生活の関わりを考察し、農業と農村の関係について明確にすることができる。	15 16 17 18 19 20	

	があることを理解する。								c	地域の実態調査などから農業の環境保全機能や人間生活との多様なかわりを読みとり正確に表現することができる。	2 1
									c	地域における農業の多面的な役割について調べ、その結果をまとめることができる。	2 2
									d	農業の多面的な役割について理解し、その知識を身に付けている。	2 3
									d	農業・農村のもつ社会的な機能を理解し、その知識を身に付けている。	2 4

(2) 農業生物と栽培環境

指導項目 (大単元)	到達目標	評価規準				単元 (農文協)	単元 (実教)	時間	観 点	評価計画(具体的評価規準)	番号
		a	b	c	d						
ア 農業生物の特性	農業生物の発芽から結実までの成育過程、光合成及び呼吸や養分吸収などの生理作用に関する基礎的な知識を習得し、農業生物の生理生態的な特性と生育の規則性について理解する。	農業生物の生理・生態的な特性や生育過程に関心を持ち、生育過程に観察に意欲的に取り組むとともに、生育状況などを科学的にとらえようとする実践的な態度を身に付けている。	農業生物の生育過程を多面的に考察し、生育の規則性から生育状況を適切に判断するとともに、生育状況などを科学的にとらえる実践的な能力を身に付けている。	農業生物の観察や測定に関する基礎的な技術を身に付け、観察や測定の記録から生育状況を正確に表現する。	作物の生育過程や光合成などの生理作用に関する基礎的な知識を身に付け、生理・生態的な特性と生育の規則性を理解している。 家畜の生育過程や行動特性などに関する基礎的な知識を身に付け、生理・生態的な特性と生育の規則性を理解している。	第2章 1 動植物の生き方と栽培・飼育	第2章 人間と植物・動物とのかわり 作物の一生と栽培のしくみ 家畜の一生と飼育 作物を取りまく環境とその管理	6	a	自然界と農耕地の違いについて関心を持ち、具体的な事例で考えようとしている。	2 5
									a	自然生態系と農業生態系の違いについて資料を活用して進んで考えようとしている。	2 6
									a	動植物の共通の性質について関心を持ち、栽培や飼育の仕組みについて考えようとしている。	2 7
									a	人間と植物・動物との関係から、人間と植物・動物とのかわりを調べようとしている。	2 8
									a	作物栽培とその管理作業を考えることで栽培のしくみを考えようとしている。	2 9
									a	動物の飼育について関心を持ち、家畜の飼育と一生について考えようとしている。	3 0
									b	作物の成長と管理作業について、科学的な見方で考察することができる。	3 1
									b	家畜の飼育と環境について、科学的な見方で考察することができる。	3 2
									b	農業生物の生育過程について継続的な学習を通して調べ、生育の規則性を見いだすことができる。	3 3
									b	自然生態系と農業生態系の違いについて、エネルギーや物質の流れで考えることができる。	3 4
									b	動植物の環境に対する適応戦略について調べ、栽培や飼育への応用について考えることができる。	3 5
									b	動物と植物の生命活動について調べ、科学的な見方で考察することで農業生物の特徴を明らかにすることができる。	3 6
									c	農業生物の観察や測定の記録から、生育状況を表やグラフにまとめることができる。	3 7
									c	基本的な栽培技術を身に付け、作物の管理作業について適切に実施することができる。	3 8
									c	基本的な飼育技術を身に付け、家畜の飼育を適切に実施することができる。	3 9
									c	栄養成長と生殖成長について、条件の違いなどを表にまとめることができる。	4 0
c	生育段階に応じた管理作業の手順や内容を理解し、実際に管理することができる。	4 1									
d	栽培飼育のプロジェクト学習を通して、農業生物の共通の	4 2									

										d	性質と栽培・飼育についての基礎的知識を身に付けている。 栽培植物・飼育動物の種類や管理について、基礎的な知識を身に付けている。	4 3	
										d	農業生物の生育過程などの生理作用に関する基礎的な知識を身に付けている。	4 4	
イ 栽培環境の要素	光、大気など気象的要素、土の組成や構造など土壌的要素、雑草や微生物など生物的要素に関する基礎的な知識を習得し、栽培環境の各要素が作物など農業生物の生育に影響を及ぼすことを理解する。	栽培環境の要素に関心を持ち、栽培環境の観察に意欲的に取り組むとともに、農業生物と環境要素との関係を科学的にとらえようとする実践的な態度を身に付けている。	栽培環境を多面的に考察し、農業生物に栽培環境が及ぼす影響を適切に判断するとともに、農業生物と環境要素との関係を科学的にとらえようとする実践的な能力を身に付けている。	栽培環境の観察や調査に関する基礎的な技術を身に付け、観察や調査の記録などから栽培環境の状況を正確に表現する。	栽培環境の気象的要素、土壌的要素に関する基礎的な知識を身に付け、農業生物の生育に栽培環境の要素が及ぼす影響を理解している。					10	a	作物の生育と養分の関係に関心を持ち、必要な養分や肥料について調べようとしている。	4 5
											a	イネの病気や害虫、水田の雑草に関心を持ち、その生態や害について調べようとしている。	4 6
											a	栽培環境の要素に関心を持つことで、作物栽培と環境について考えようとしている。	4 7
											b	イネの栽培環境のうち、害をおよぼす要素について調べ、防除について判断することができる。	4 8
											b	栽培環境と管理作業について調べ、科学的な見方で考えることができる。	4 9
											c	イネの病気や害虫、水田の雑草についての調査方法を身に付け、結果を正確に表現できる。	5 0
											c	病虫害の防除や除草を理解し、確実に行うことができる。	5 1
											d	病虫害の名前や雑草の種類を理解し、その防除法等の知識を身に付けている。	5 2
											d	作物と環境の相互関係を理解し、栽培環境の要素に関する基礎的な知識を身につけている。	5 3
											d	作物に必要な養分と施肥の方法について基礎的な知識を身に付けている。	5 4
											d	イネの病気や害虫、水田の雑草について基礎的な知識を身に付け、防除の方法を理解している。	5 5
											d	栽培環境の要素に関する基礎的な知識を身に付け、作物と環境についての相互関係を理解している。	5 6
											d	農業生態系の持続的利用についての知識を身に付け、環境を保全する農業を理解している。	5 7

(3) 農業生産の基礎

指導項目 (大単元)	到達目標	評価規準				単元 (農文協)	単元 (実教)	時間	観 点	評価計画(具体的評価規準)	番号
		a	b	c	d						
ア 農業生物の栽培・飼育	栽培は、播種や収穫等の作物管理、除草、施肥やかん水等の栽培環境の管理に関する知識と技術を習得し、作物の特性、栽培環境及び管理技術の相互関係を理解する。	作物栽培や家畜飼育に関心を持ち、栽培・飼育に関するプロジェクトに意欲的に取り組むとともに、栽培や飼育の技術の仕組みを科学的にとらえようとする実践的な態度を身に付けている。	作物栽培や家畜飼育を多面的に考察し、生育過程に即した管理技術を適切に判断するとともに、栽培や飼育の技術の仕組みを科学的にとらえようとする実践的な能力を身に付けている。	は種や定植など作物の管理と除草やかん水など栽培環境の管理に関する基礎的な技術を身に付け、栽培のプロジェクトを実施するとともに、観察や考察を正確に表現する。 給餌や健康診	は種や定植など作物の管理と除草やかん水など栽培環境の管理に関する基礎的な知識を身に付け、作物の特性、栽培環境とそれらの管理技術の相互関係を理解している。 給餌や健康診	第3章 1 種子を利用する植物の栽培と利用	第3章 栽培と飼育のプロジェクト イネ トウモロコシ ダイズ カウリ スイカ	70	【栽培ではイネを例として取り上げる】 a プロジェクト学習に関心を持ち、イネの栽培プロジェクトに意欲的に取り組もうとしている。 a イネの性質や栽培について関心をもつことで、自ら学習しようとしている。 b イネの形状と栽培上の性質から、正しい栽培方法を考えることができる。 d イネの栽培プロジェクトの進め方を身に付け、ねらいを理解している。 a たねもみの構造やよしあしに関心を持ち、発芽の条件を考えようとしている。 b たねもみの構造について観察により調べ、たねもみのよしあしを判断することができる。 b よいたねもみとわるいたねもみについて調べ、その結果が	5 8 5 9 6 0 6 1 6 2 6 3 6 4	

				断など家畜管理と消毒や除糞などの飼育環境の管理に関する基礎的な技術を身に付け、飼育のプロジェクトを適切に実施するとともに、観察や考察を正確に表現する。	などの飼育環境の管理に関する基礎的な知識を身に付け、家畜の特性、飼育環境とそれらの管理技術の相互関係を理解している。	3 葉や茎、根を利用する植物の栽培と利用 4 草花・ハーブの栽培と利用	トマト ハカイダイコン キク 花壇 用草花	<p>d らよいたねもみを選ぶことができる。 たねもみの構造とよしあしが分かり、発芽の条件を理解している。 6 5</p> <p>d 発芽に必要な条件についての知識を身に付けている。 6 6</p> <p>a 苗づくりやたねまきに関心を持ち、実習に意欲的に取り組もうとしている。 6 7</p> <p>b 塩水選によるたねもみのよしあしの判断ができる。 6 8</p> <p>b 苗の調査の結果から、苗のよしあしの判断ができる。 6 9</p> <p>b 生育診断の結果から、苗のよしあしの判断ができる。 7 0</p> <p>c 塩水選や消毒及び芽だしの基本的な操作ができ、的確なたねまきをすることができる。 7 1</p> <p>c 苗の管理の仕方を身に付け、苗の生育についての記録を正確に表現することができる。 7 2</p> <p>c 正しいたねまきや育苗管理を理解し、確実に行うことができる。 7 3</p> <p>d たねもみの予措について理解し、その知識を身につけている。 7 4</p> <p>d 苗づくりのねらいが分かり、たねまきや苗の管理についての知識を身に付けている。 7 5</p> <p>a 水田の特徴や田植えに関心を持ち、実習に意欲的に取り組もうとしている。 7 6</p> <p>b 水田の土と水の性質から、水田の特徴を明らかにすることができる。 7 7</p> <p>b 植え付けの方法について調べ、正しい植え付けが判断できる。 7 8</p> <p>c 正しい植え付けの方法を理解し、確実に行うことができる。 7 9</p> <p>c 施肥や耕うん・しろかきおよび田植えの実習が適切にできる。 8 0</p> <p>c 正しい施肥量の結果から、本田の準備を行うことができる。 8 1</p> <p>d 水田の特徴を理解し、施肥や耕うん・しろかきおよび田植えについての知識を身に付けている。 8 2</p> <p>d 水田の機能を理解し、その知識を身に付けている。 8 3</p> <p>a イネの構造やしくみに関心を持ち、分けつの出方や法則性を考えようとしている。 8 4</p> <p>b イネの分けつの出方から、イネの良い生育の状態を推定することができる。 8 5</p> <p>d イネの構造やしくみを理解し、分けつの出方が説明できる。 8 6</p> <p>d 葉、茎、根の構造や仕組みに関する知識を身に付けている。 8 7</p> <p>a 水田の水管理が生育段階で異なることから、適切な水管理の方法を考えようとしている。 8 8</p> <p>c 生育段階に応じた管理作業の手順や内容を理解し、実際に管理することができる。 8 9</p> <p>d 水田の水管理の方法を理解し、生育段階に応じた管理の方法を説明できる。 9 0</p> <p>a 追肥の大切さに関心を持ち、適期に施すことの必要性を考えようとしている。 9 1</p> <p>b 追肥時期の判定の観察を通して、的確な追肥の時期を判定することができる。 9 2</p>
イ 農業生産物の利用	付加価値を高める利用や加工についての基礎的な知識と技術を習得するとともに、農業生産物の良否が加工等の良否に与える影響について理解する。	農業生産物の加工、利用や保存に関心を持ち、農業生産物の良否を科学的にとらえようとする実践的な態度を身に付けている。	農業生産物の加工、利用や保存の過程を多面的に考察し、農業生産物の良否を科学的にとらえる実践的な能力を身に付けている。	付加価値を高める加工や利用に関する基礎的な技術を身に付けている。	付加価値を高める加工や利用に関する基礎的な知識を身に付け、農業生産物の良否が加工等の良否に与える影響を理解している。			
ウ 農業生産の計画・管理・評価	農業生産に関する計画の作成、管理の手順、観察、記録と分析の方法、まとめと評価の方法などを理解し	農業生産の計画、管理、評価に関心を持ち、計画の作成などに意欲的に取り組むとともに、農業生産を合理的に実施しよう	農業生産の過程を科学的に考察し、プロジェクトの実施状況を適切に判断するとともに、農業生産を合理的に実施する実践	農業生産に関する計画の作成、管理の手順、まとめや評価などの方法を身に付け、観察や考察を正確に表現する。	農業生産の計画、管理、評価に関する知識を身に付け、その方法を理解している。			

ている。	とする実践的な態度を身に付けている。	的な能力を身に付けている。						<ul style="list-style-type: none"> b 水管理や追肥のやり方とイネの生育の関係について、考えることができる。 9 3 c 追肥の適期を判断し、追肥を行うことができる。 9 4 d 追肥の仕方を身に付け、適期に施すことを理解している。 9 5 c 病害虫の防除や除草を理解し、確実に行うことができる。 9 6 d 病害虫の名前や雑草の種類を理解し、その防除法等の知識を身に付けている。 9 7 a 出穂後の生育診断に関心を持ち、生育状態や収量について考えようとしている。 9 8 b 生育診断の結果から、地上部の生育のよしあしの判断ができる。 9 9 c 生育調査の結果を表にまとめ、診断の結果を明らかにすることができる。 100 d 出穂後の生育診断の方法を身に付け、結果から生育のよしあしや収量予想について説明できる。 101 a イネの開花・受精について関心を持ち、そのしくみについて調べようとしている。 102 d イネの開花・受精について他の植物と比較して理解し、その知識を身に付けている。 103 d 開花・受粉・結実の仕組みについての知識を身に付けている。 104 a 米粒の発達の仕方の観察から、収穫の適期を見いだそうとしている。 105 b 米粒の発達の仕方の観察から、収穫の適期の判定ができる。 106 b 米粒の成熟の過程について調べ、収穫適期を明確に判断できる。 107 d 米粒の発達の仕方が分かり、収穫適期の判定の仕方を理解している。 108 a イネの収量調査により、収穫についての期待をもとうとしている。 109 b 収量調査の結果を考察し、栽培の過程と結びつけて問題点を明確にすることができる。 110 c 収量構成要素のそれぞれの調査・計算が的確にでき、その結果を表にまとめることができる。 111 c 収量診断の方法を理解し、実施することができる。 112 d 収量調査に関する基礎的な知識を身に付け、その結果を栽培の過程と結びつけて理解している。 113 c 収量調査の目的や方法について説明できる。 114 a 稲刈りやその調整に関心を持ち、意欲的に実習に取り組もうとしている。 115 c 稲刈りやその調整についての基本的な技術を身に付け、正確に実施することができる。 116 c 収穫から調整までの作業手順を理解し、実施することができる。 117 d 収穫と調整に関する基礎的な知識を身に付けている。 118 c 食味試験の結果から、米の評価を表にまとめることができる。 119 d 米の加工品について理解し、その知識を身に付けている。 120 a イネの生育調査を通して、草丈や葉数の変化を科学的に考 121
------	--------------------	---------------	--	--	--	--	--	---

						a	ニワトリの飼育や性質について関心をもつことで、自ら学習しようとしている。	144
						b	ニワトリの飼育計画を立て、問題点を明確にすることができる。	145
						c	生育段階に応じた管理作業の手順や内容を理解し、実際に管理することができる。	146
						d	ニワトリ(ブロイラー)の飼育に関する基礎的な知識を身に付け、飼育計画を理解している。	147
						c	ふ卵器を操作して、ふ化させることができる。	148
						d	卵の構造を理解し、その性質を理解している。	149
						a	ひなの特徴に関心をもち、意欲的に飼育をしようとしている。	150
						c	ひなの観察が正確にでき、ひなの良否の判定が明確にできる。	151
						c	育雛の各段階に応じて必要な飼料を考え、的確に判断することができる。	152
						b	飼料の給餌と体重増加の関係について考察し、適切な給餌量が判断できる。	153
						c	育雛器の飼育方法を理解して、適切に管理を行うことができる。	154
						c	ニワトリ(ブロイラー)の飼育管理に関する基礎的な技術を身に付け、成長について表やグラフで正確に表現できる。	155
						d	ひなの特徴を理解し、適切な管理の方法を身に付けている。	156
						d	ニワトリ(ブロイラー)の飼育管理に関する基礎的な知識を身に付け、適切な管理方法を理解している。	157
						a	ニワトリ(ブロイラー)の生育に適する鶏舎について、考えようとしている。	158
						d	ニワトリ(ブロイラー)の飼育方法について理解し、鶏舎の整備の仕方を身に付けている。	159
						c	産卵鶏の特性を知り、産卵の仕組みを説明できる。	160
						c	多産鶏と小産鶏の見分け方を習得している。	161
						b	病気と対策について調べ、的確に判断することができる。	162
						a	ニワトリ(ブロイラー)の加工について関心をもち、解体実習に意欲的に取り組もうとしている。	163
						b	ニワトリの体の構造を考え、合理的な解体方法をおこなうことができる。	164
						c	付加価値を高める加工についての基礎的な技術を身に付けている。	165
						d	解体や加工に関する基礎的な知識を身に付け、鶏肉の良否について理解している。	166
						a	自分たちで栽培・飼育した食料を食べることで、食料についての考えを深めようとしている。	167
						b	試食により、プロジェクトの成果について考察を深めることができる。	168
						c	食味の評価の結果をまとめ、正確に表現することができる。	169
						d	栽培や飼育の基礎的な知識を身に付け、食料生産の大切さを理解している。	170
						a	ニワトリの飼育プロジェクトの結果に関心をもち、意欲的にまとめようとしている。	171

										b	プロジェクトの結果を考察し、評価や反省を明確にすることができる。	172
										c	プロジェクトの結果を表やグラフにまとめ、分かりやすく発表することができる。	173
										c	飼育作業や実験・観察・調査など結果から、記録を表やグラフにまとめることができる。	174
										c	プロジェクト結果から、取り組んだ課題についての確にまとめ発表することができる。	175
										d	ニワトリ(ブロイラー)の飼育についての基礎的な知識を身に付け、プロジェクト学習について理解している。	176
										d	プロジェクトで設定した課題に対する結果を考察し、説明することができる。	177
										d	反省・評価を行い、次のプロジェクトへ発展させることができる。	178

(4) 農業学習と学校農業クラブ活動

指導項目 (大単元)	到達目標	評価規準				単元 (農文教)	単元 (実教)	時間	観点	評価計画(具体的評価規準)	番号
		a	b	c	d						
ア 農業学習の特質	農業学習に関する基礎的な知識を身に付け、農業学習の特徴を理解する。	農業学習の特質に関心をもち、栽培・飼育などの実際的な学習に継続的に取り組むとともに、農業学習を科学的に実施しようとする実践的な態度を身に付けている。	農業学習における観察や活動の記録を多面的に考察し、基礎的な知識・技術に基づいて記録を適切に評価し、農業学習を科学的に実施する実践的な能力を身に付けている。	農業学習に関する基礎的な技術を身に付け、実験・実習を適切に実施するとともに、観察や活動の記録を正確に表現する。	農業学習に関する基礎的な知識を身に付け、農業学習の特徴を理解している。	第1章 2 農業科学基礎と私たちの学び	第1章 生き物から学ぶ楽しさ 農業の学び方	2	a	農業学習は生命体に働きかける学習であることに興味をもち、その学習に意欲的に取り組もうとしている。	179
									a	生き物を育て学ぶことから、農業学習に興味関心を持つようとしている。	180
									a	生き物の日々の成長から、農業学習の楽しさや難しさを感じようとしている。	181
									b	観察や記録の活動をとあして、科学的な思考や判断ができる。	182
									c	観察や記録の結果をまとめ、正確に表現できる。	183
									d	農業生物の育成の学習を通して、農業学習の方法を身に付け、農業学習が、総合科学的な学習であることを理解している。	184
									d	農業学習は、農業生物の育成の体験学習を通して、学習方法を身に付けることを理解している。	185
イ プロジェクト学習	農業生物の育成の学習を通して、実際的な栽培・飼育を生徒が主体的、計画的に実施することによって、学習内容を農業の各分野の現実に結びつけて習得する学習方法であることを理解する。	プロジェクト学習の進め方に関心をもち、プロジェクト学習に主体的に取り組むとともに、課題をもって取り組もうとする実践的な態度を身に付けている。	プロジェクト学習の進め方を多面的に考察し、進め方の適否を適切に判断する	プロジェクト学習に関する基礎的な技術を身に付け、プロジェクト活動の記録や考察を正確に表現する。	プロジェクト学習に関する基礎的な知識を身に付け、プロジェクト学習の特徴を理解している。	3 プロジェクト学習とその発展 第2章 3 栽培・飼育のプロジェクトの進め方	第1章 プロジェクト学習の方法	4	a	プロジェクト学習に関心をもち、意欲的に取り組もうとしている。	186
									a	プロジェクト学習を活用して、自ら進んで学習に取り組もうとしている。	187
									b	プロジェクトの目的や課題について調べ、その結果から問題の特徴を明らかにできる。	188
									c	プロジェクト活動の成果について、正確に表現し、発表できる。	189
									d	プロジェクト活動の4つの遂行過程を理解し、進め方を身に付けている。	190

ウ 学校 農業クラ ブ活動	学校農業ク ラブは農業教 育の一環とし て行う学習活 動であり、活 動を通して農 業各分野の学 習の成果を確 実に定着させ、主体的、 自律的に学習 する態度を育 成する学習活 動であることを理解する。	学校農業クラ ブ活動に関心 をもち、専門分 会活動やプロ ジェクト活動 に意欲的に参 加し、自主的 に取り組むと ともに、目的 を達成しようと する実践的な 態度を身に付 けている。	学校農業クラ ブ活動の内容を 多面的に考察 し、活動の適 否を適切に判 断するととも に、目的を達 成する実践 的な能力を身 に付けている。	学校農業クラ ブに関する基 礎的な技術を 身に付け、専 門分会活動 などを適切 に実施すると ともに、活動 の記録や考 察を正確に 表現する。	学校農業クラ ブ活動に関する 基礎的な知識 を身に付け、 学校農業クラ ブ活動の目的 を理解してい る。	4 学校 農業クラ ブ活動	第1章 学校 農業ク ラブ活 動	4	a 学校農業クラブ活動に関心をもち、その活動に積極的に取 り組もうとしている。 b 科学性・社会性・指導性の三つの目標の実現を目指す取り 組みについて自ら判断できる。 c プロジェクト学習の方法を身に付け、実際におこなうこと ができる。 c 学校農業クラブ活動の目的と内容を説明できる。 d 学校農業クラブ活動に関する基礎的な知識を身に付け、そ の目的を理解している。	191 192 193 194 195
---------------------	--	---	---	---	---	---------------------	------------------------------	---	--	---------------------------------

指導と評価の年間計画表の構成

次ページより科目「農業科学基礎」の年間計画表を添付するが、ここでは添付した計画表がどのような構成になっているかを示す。

1 評価計画に主眼をおいた年間学習指導計画表の構成

「農業科学基礎」年間指導計画表

「農業科学基礎」年間指導計画表									
1. 科目の目標									
2. 評価の観点の観点からみる科目の目標									
評価の観点	学習・指導								
知識・技能	農業科学の基礎知識を習得し、農業に関する基礎的な知識を習得する。								
思考・判断・問題解決	農業科学の基礎知識を習得し、農業に関する基礎的な知識を習得する。								
態度・行動	農業科学の基礎知識を習得し、農業に関する基礎的な知識を習得する。								

- 科目の目標
- 観点別目標の設定
- 評価規準表より転記
- 内容のまとめり
学習指導要領の「第2内容及び内容の取扱い」中の(1)(2)・・・の項目を記載
- 大単元(評価規準表)
時期及び使用教科書に準拠して記載
- 大単元番号
評価の総括段階で活用

- 単元(評価規準表)
評価規準表に記載されている単元名を記載
- 単元記号
評価の総括段階で活用

- 単元ごとの到達目標
評価規準表に示された大単元の目標に準じて到達目標を設定

- 学習内容
教科書の内容から学習内容を計画

- 具体的評価規準の設定
評価規準表に示された具体的評価規準の番号を記載

- 評価の場面・方法の設定
具体的評価項目の評価の場面・方法を記載

学年	学期	単元	単元記号	到達目標	学習内容	具体的評価規準	評価の場面・方法	評価の総括段階
1	上	1	1	農業科学の基礎知識を習得し、農業に関する基礎的な知識を習得する。	農業科学の基礎知識を習得し、農業に関する基礎的な知識を習得する。	1	1	1
		2	2	農業科学の基礎知識を習得し、農業に関する基礎的な知識を習得する。	農業科学の基礎知識を習得し、農業に関する基礎的な知識を習得する。	2	2	2
2	上	3	3	農業科学の基礎知識を習得し、農業に関する基礎的な知識を習得する。	農業科学の基礎知識を習得し、農業に関する基礎的な知識を習得する。	3	3	3
		4	4	農業科学の基礎知識を習得し、農業に関する基礎的な知識を習得する。	農業科学の基礎知識を習得し、農業に関する基礎的な知識を習得する。	4	4	4
3	上	5	5	農業科学の基礎知識を習得し、農業に関する基礎的な知識を習得する。	農業科学の基礎知識を習得し、農業に関する基礎的な知識を習得する。	5	5	5
		6	6	農業科学の基礎知識を習得し、農業に関する基礎的な知識を習得する。	農業科学の基礎知識を習得し、農業に関する基礎的な知識を習得する。	6	6	6

年 間 指 導 計 画 表

教科・科目	農業・農業科学基礎	学 年	1 年	指導クラス	
単 位 数	2単位	使用教科書	農業科学基礎(実教)	指導者名	

検 印					
--------	--	--	--	--	--

1 科目の目標

農業生物の育成についての体験的、探究的な学習を通して、農業に関する基礎的な知識と技術を習得させ、農業及び農業学習についての興味・関心を高めるとともに、科学的思考力と問題解決能力を伸ばし、農業の各分野の発展を図る能力と態度を育てる。

2 評価の観点の趣旨からみた科目の目標

関心、意欲、態度 a	思考・判断 b	技能・表現 c	知識・理解 d
農業生物の育成や農業の社会的な役割など農業と農業学習に興味・関心を持ち、農業生物の育成に関するプロジェクトを主体的に行うなど課題の探求に意欲的に取り組むとともに、その課題を科学的にとらえて合理的に解決しようとする実践的な態度を身につけている。	農業生物の育成の記録を分析するなど課題を多面的に考察し、農業に関する基礎的な知識と技術を活用するなどして課題を適切に判断するとともに、その課題を科学的にとらえて合理的に解決する実践的な能力を身につけている。	農業生物の育成や生産物の利用など農業に関する基礎的な技術を身につけ、プロジェクトを適切に実施するとともに、栽培や飼育の観察や考察などを正確に表現する。	農業生物の育成や生産物の利用など農業に関する基礎的な技術を身につけ、農業生物の特性と生育環境の関係や育成の課程などを理解している。

3 指導及び評価計画

月	旬	内容のまとめ	指導項目 (大単元)	単 元	単元ごとの 到達目標	学習内容	時間	評 価 計 画				評価の場 面・方法	
								a	b	c	d		
4	中	農業学習と 学校農業ク ラブ活動	1 農業学習の特 質 (第1章 1 生き物か ら学ぶ楽しさ 2 農業の学 び方)	ア 生き物から学ぶ 生き物の日々の成 長	農業学習の楽しさや むずかしさを感じ取 り、農業学習に興味 ・関心がもてる。	人間と生き物との かかわり方 生命体の持つ神秘	1	180				行動観察 行動観察	
				イ 農業学習と教材 農業学習の特質 農業学習の方法	農業学習の特質を理 解し、積極的に農業 学習に取り組む姿勢 を身につける。	農業学習と教材・ 農業学習の特質・ 方法			182	183	184	プリント プリント プリント	
			2 プロジェクト 学習 (第1章 3 プロジェ クト学習の 方法)	ウ プロジェクト学習 とは プロジェクト学習 の進め方 プロジェクト学習 のまとめと進展	プロジェクト学習の 方法を理解し、プロ ジェクト学習を農業 学習に生かせるよう になる。	プロジェクト学習 の方法・進め方・ まとめ・進展	1	187	188	189	190	行動観察 プリント レポート 実技試験	
			農業生物と 栽培環境	3 農業生物の特 性 (第2章 1 人間と植 物・動物との かかわり)	エ 太陽エネルギーを 地球にとどめる植物 生命活動のエネル ギーをつくる 生き物の世界のつ ながり とぎれることのない 物質のつながり 人間の営みとしての 農業 環境と調和した農 業を続けるために	人間と植物、動物と のかかわりについて 理解し、農業学習に 取り組める。 環境と調和した農業 が人類社会の持続的 な発展に不可欠であ ることを理解する。	人間と植物、動物 とのかかわりにつ いて 環境と調和した農 業を続けるために	1	26 28	33 36	37 41	42 43	プリント プリント プリント レポート 実習観察 考 査 考 査
				4 栽培環境の要 素 (第2章 2 作物の一 生と栽培のし くみ)	オ 作物栽培とその管 理 種子と発芽 成長のしくみと成 長期の栽培管理 作物の繁殖	作物の成長と管理作 業の意味を結びつけ て理解する。 作物の繁殖のしくみ を理解する。	作物の栽培管理 種づくりと働き 発芽に必要な環境 条件 成長のしくみ 繁殖の技術		29	31	38	44	プリント プリント 実習観察 考 査
下		農業生産の 基礎	5 農業生物の栽 培・飼育 農業生産物の 利用 農業生産の計 画・管理・評 価 (第3章 1 イネ)	カ 栽培の計画	イネの形状と栽培上 の性質を理解する。 生育段階に応じた管 理作業の手順や内容 を理解する。 イネの栽培計画を立 てることできる。	イネの一生と主な 性質 課題設定と栽培計 画	2	59	60		66	プリント 実習観察 考 査 行動観察 レポート	
									58			61	
5	上	農業生産の 基礎		キ 育苗	よいたねもみを選ぶ ことできる。 たねもみの予措につ	選種	4	62		64 68	71	プリント 実習観察 実習観察 実習観察	

8	下				作物のからだを作る養分 作物をとりまく生物		病気・害虫・雑草	1								
9	上	農業生産の基礎	10	(第3章 1 イネ)	セ 収穫	米粒の成熟過程を理解し、収穫適期が判定できる。 収穫から調整までの作業手順を理解し、実施できる。 収量診断の方法を理解し、実施できる。 期末考査	米粒の成熟過程 収穫の適期 収量診断 刈取り 脱穀 仕上げ乾燥 調整	8	105 106	107	104 108	110 111 117	112 116	113 114	118	実習観察 実習観察 プリント 考査 考査 行動観察 プリント レポート 実習観察 考査 行動観察 実習観察 実習観察 考査 考査 行動観察 実習観察 実習観察 考査
10	上		11		ソ 加工・利用	食味試験により米の評価ができ、考察できる。 米の加工食品について理解する。	食味試験 米の加工食品	4	167	168	119	120 170			118	行動観察 プリント レポート 考査 考査
	中				タ プロジェクトのまとめ	栽培作業や実験・観察・調査などの記録を整理する。 設定した課題に対する結果をまとめ、考察する。 反省・評価を行い、次のプロジェクトへ発展させる。	設定した課題に対する結果をまとめ、考察する。	4	121 125 129	122 126 131	123 127 133 134	124 128 135 136				レポート レポート 行動観察 レポート レポート レポート プリント レポート レポート レポート レポート レポート
11	上	農業生物と栽培環境	12	栽培環境の要素 (第2章 4 家畜の一生と飼育)	チ 家畜と飼育 おもな家畜の一生と生産 家畜の成長と繁殖 家畜の飼料と栄養 飼育環境の管理と整備	家畜に関する基礎知識を身につけ、飼育と環境との関係について理解する。	家畜に関する基礎知識 (成長・繁殖・飼料・環境)	4	30 138	32 139	39 140	141 142				行動観察 行動観察 プリント プリント 実習観察 実習観察 考査 考査
	中	農業生産の基礎	13	農業生物の栽培・飼育 農業生産物の利用 農業生産の計画・管理・評価 (第3章 11 ニワトリ)	ツ 飼育の計画	ニワトリの形状と飼育上の性質を理解する。 生育段階に応じた管理作業の手順や内容を理解する。 ニワトリの飼育計画を立てることができる。	ニワトリの一生と主な性質 課題設定と飼育の計画	2	143 144	145	146	147				行動観察 プリント プリント 実習観察 考査
	下				テ ふ化	卵の構造を理解し、ふ卵器を操作することができる。	卵の準備 ふ化の実際	2			148	149				実習観察 考査
12	上				ト 育すう	育雛方法を理解して、適切に管理を行うことができる。 各段階に応じて、適した資料を与えることができる。	育雛の準備 初生びなの管理 幼びなの管理	4	152	154			150	151		プリント 実習観察 行動観察 実習観察

学習指導計画 1 (学習進行過程、観点別評価の計画・方法に主眼をおいた指導案)

2種類の様式を提示する。

形式的内容

日時・場所・指導者名等

指導と評価に関する内容

単元全体の目標及びこの目標に対応する指導と評価の計画を記載

単元の目標

年間指導計画表に記載した単元の目標を記載

指導観

生徒の実態

指導と評価の計画

- ・指導内容とその配当時間の設定
- ・学習内容ごとの具体的評価規準の設定
- ・本時の具体的評価規準の設定

本時の目標の設定

教科・科目	学年・単元	指導者	指導年次	科 研 室																				
理科	中学 年 次 目 次 単 元 課 時 数	指導者名	指導年次	科 研 室																				
指導教科書	教科書(著者)	補助教科	プリント・資 料																					
単 元 要 約	<p>単元の目標</p> <p>単元の指導</p> <p>単元の評価</p>																							
指導と評価の計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>指導内容</th> <th>到達目標</th> <th>生徒の学習活動</th> <th>学習進行過程</th> <th>評価計画</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>単元の導入</td> <td>単元の導入について理解する。</td> <td>・たまたまの出来事(2010-2011)でつくられたものについて理解する。</td> <td>【課題設定】 「よい」の条件は何か</td> <td></td> </tr> <tr> <td>単元の展開</td> <td>単元の展開について理解する。</td> <td>・たまたまの出来事(2010-2011)でつくられたものについて理解する。</td> <td>【課題解決】 ①(理由) 単元の展開の進め方 ②(理由) 単元の展開の進め方 ③(理由) 単元の展開の進め方</td> <td>単元評価 単元の展開の進め方</td> </tr> <tr> <td>単元のまとめ</td> <td>単元のまとめについて理解する。</td> <td>・たまたまの出来事(2010-2011)でつくられたものについて理解する。</td> <td>【課題解決】 ①(理由) 単元の展開の進め方 ②(理由) 単元の展開の進め方 ③(理由) 単元の展開の進め方</td> <td>単元評価 単元の展開の進め方</td> </tr> </tbody> </table>				指導内容	到達目標	生徒の学習活動	学習進行過程	評価計画	単元の導入	単元の導入について理解する。	・たまたまの出来事(2010-2011)でつくられたものについて理解する。	【課題設定】 「よい」の条件は何か		単元の展開	単元の展開について理解する。	・たまたまの出来事(2010-2011)でつくられたものについて理解する。	【課題解決】 ①(理由) 単元の展開の進め方 ②(理由) 単元の展開の進め方 ③(理由) 単元の展開の進め方	単元評価 単元の展開の進め方	単元のまとめ	単元のまとめについて理解する。	・たまたまの出来事(2010-2011)でつくられたものについて理解する。	【課題解決】 ①(理由) 単元の展開の進め方 ②(理由) 単元の展開の進め方 ③(理由) 単元の展開の進め方	単元評価 単元の展開の進め方
指導内容	到達目標	生徒の学習活動	学習進行過程	評価計画																				
単元の導入	単元の導入について理解する。	・たまたまの出来事(2010-2011)でつくられたものについて理解する。	【課題設定】 「よい」の条件は何か																					
単元の展開	単元の展開について理解する。	・たまたまの出来事(2010-2011)でつくられたものについて理解する。	【課題解決】 ①(理由) 単元の展開の進め方 ②(理由) 単元の展開の進め方 ③(理由) 単元の展開の進め方	単元評価 単元の展開の進め方																				
単元のまとめ	単元のまとめについて理解する。	・たまたまの出来事(2010-2011)でつくられたものについて理解する。	【課題解決】 ①(理由) 単元の展開の進め方 ②(理由) 単元の展開の進め方 ③(理由) 単元の展開の進め方	単元評価 単元の展開の進め方																				

授業展開に関する内容	具体的指導内容	到達目標	生徒の学習活動	学習進行過程	評価計画
	指導の展開を学習の場面として捉え、その場面ごとの表題を記載する。	学習の場面ごとに目標とする生徒の姿を記述する。	指導者が想定した生徒の学習活動を具体的に記述する。 学習内容が他の科目に跨る場合には、欄を分割し、どの科目の内容であるか明確にしておく。	授業の構成を明示し、各評価項目に対応する評価の場面が明確になるようにする。	具体的評価規準とその評価方評価法を示す。評価規準表に記載されたものをもと作成された年間指導計画表に対応させる。

学 習 指 導 案 (様 式 1)

教科・科目	農業・農業科学基礎	指導者		指導学級	科 年生								
授業日時	平成 年 月 日 (曜日) 第 時限	授業場所											
使用教科書	農業科学基礎 (実教)	補助教材	プリント・苗・育苗箱										
単 元	育 苗												
単元の指導目標	・よいたねもみを選ぶことができる。 ・たねもみの予措について理解する。 ・たねまきや育苗管理を確実に行うことができる。												
指 導 観	たねまきのもみの量を変えることにより、苗の生育にどのような違いがでるかを考えさせ、環境による苗の生長の変化からよい苗の条件を考察できるようにする。また、米作りにおける苗作りの重要性について考えさせる。												
生徒の実態	おとなしくまじめなクラスで、物事を一生懸命考えようとする生徒が多く見られるが、全体的にやや積極的に欠ける。自主的に取り組むことや問題を自分で解決しようとする習慣が身に付いていない。												
指導計画及び評価計画	学 習 内 容	時間数	評 価 計 画 (具体の評価規準)							備 考			
			62	64	65	67	68	69	71	73	74	75	
	(1) 選種	1											
	(2) たねもみの予措	1											
	(3) 苗の育て方	1											
(4) よい苗の条件 (生育調査)	1											本時 : 1 時間中 1 時間	
本時の目標	米作りにおいて苗のよしあしとその後の生育に大きく影響することを理解し、よい苗の条件を理解できるようにする。よい苗と悪い苗を見分け、よい苗を選ぶことができるようにする。												
	指導内容	到達目標	生 徒 の 学 習 活 動		学習進行過程	評 価 計 画							
						具体の評価規準	評価方法						
導 入	前回の内容確認	たねまきの方法について確認する。	・たねまきを4つの条件 (20g・60g・120g・240g) で行った場合、発芽の仕方の違いを観察する。		【課題設定】 「よい苗の条件は何か？」								
	展 示	苗の観察	条件の違いによる苗の発育の違いについて考える。	・たねまきを4つの条件 (20g・60g・120g・240g) で行った場合の苗の発育の違いについて、育苗箱の苗で観察する。		【課題解決過程】 探求 苗の発育の違いを考える 探求 草丈・根数・葉色などを比べ、よい苗を選ぶ。 理解 条件にあったよい苗を選ぶことができる。	6 9	行動観察	プリント				
よい苗とは		よい苗とはどのような苗か理解する。	・4つの苗 (20g・60g・120g・240g) をそれぞれ抜き取り、班ごとに観察・スケッチをする。 ・各班ごとによい苗を選んだ理由を考え発表する。1		理解 条件にあったよい苗を選ぶことができる。 探求 茎が太くがっちりした苗がよい苗であることを理解する。 探求 よい苗の条件とは？ 理解 よい苗の三つの条件が満たされている苗で、特に第三の条件が重要である								
よい苗の条件		よい苗の三つの条件を理解する。	・その他のよい苗の条件を考える。 ・以下の3つの条件が大切であるということを理解する。 第一の条件 病害虫におかされていないこと。 第二の条件 苗ぞろいがよいこと。 根がマット状になっていること。 第三の条件 風乾重が大きく充実度が高いこと		【課題の解決】 風乾重の大きい苗は、茎に多くの養分を含んでいるため、活着が早く成長も早い。従って太くがっちりした苗がよい米作りにつながる。	6 9		プリント					
開 閉	よい苗の条件	よい苗の三つの条件を理解する。	・その他のよい苗の条件を考える。 ・以下の3つの条件が大切であるということを理解する。 第一の条件 病害虫におかされていないこと。 第二の条件 苗ぞろいがよいこと。 根がマット状になっていること。 第三の条件 風乾重が大きく充実度が高いこと		【課題の解決】 風乾重の大きい苗は、茎に多くの養分を含んでいるため、活着が早く成長も早い。従って太くがっちりした苗がよい米作りにつながる。	7 5		プリント					
	苗作りの重要性	「苗半作」の意味と苗作りの大切さを理解する。	・安定した収量をあげるためにはよい苗を育てる必要があることがわかる。										
ま と め	本時のまとめ	よい苗の条件についてまとめ、理解する。	・よい苗の条件を確認し、苗作りの重要性を確認する。 ・よい苗を作るためにはどのような管理が必要かを理解する。										

学 習 指 導 案 (様 式 2)

教科・科目	農業・農業科学基礎	指導者		指導学級	科 年生									
授業日時	平成 年 月 日 (曜日) 第 時限	授業場所												
使用教科書	農業科学基礎 (実教)	補助教材	プリント・苗・育苗箱											
単 元	育 苗													
単元の指導目標	・よいたねもみを選ぶことができる。 ・たねもみの予措について理解する。 ・たねまきや育苗管理を確実に行うことができる。													
指 導 観	たねまきのもみの量を変えることにより、苗の生育にどのような違いができるかを考えさせ、環境による苗の生長の変化からよい苗の条件を考察できるようにする。また、米作りにおける苗作りの重要性について考えさせる。													
生徒の実態	おとなしくまじめなクラスで、物事を一生懸命考えようとする生徒が多く見られるが、全体的にやや積極的に欠ける。自主的に取り組むことや問題を自分で解決しようとする習慣が身に付いていない。													
指導計画及び評価計画	学 習 内 容	時間数	評 価 計 画 (具体の評価規準)								備 考			
	(1) 選種	1	62	64	65	67	68	69	71	73	74	75		
	(2) たねもみの予措	1												
	(3) 苗の育て方	1												
	(4) よい苗の条件 (生育調査)	1												本時：1時間中1時間
本時の目標	米作りにおいて苗のよしあしとその後の生育に大きく影響することを理解し、よい苗の条件を理解できるようにする。よい苗と悪い苗を見分け、よい苗を選ぶことができるようにする。													
	指導内容	到達目標	生徒の学習活動	評 価 計 画								指導上の留意点		
				具体の評価規準	評価方法									
導 入	前回の内容確認	たねまきの方法について確認する。	・たねまきを4つの条件 (20g・60g・120g・240g) で行った場合、発芽の仕方の違いを観察する。											種まきの方法について確認し、発芽の違いに興味を持たせる。
	苗の観察	条件の違いによる苗の発育の違いについて考える。	・たねまきを4つの条件 (20g・60g・120g・240g) で行った場合の苗の発育の違いについて、育苗箱の苗で観察する。	6 9	行動観察	プリント								4つの条件の違いによる発芽の違いについて班ごとに考えさせる。
	よい苗と悪い苗を判断する条件について考える。	・4つの苗 (20g・60g・120g・240g) をそれぞれ抜き取り、班ごとに観察・スケッチをする。 ・各班ごとによい苗を選んだ理由を考え発表する。1												
展 示	よい苗とは	よい苗とはどのような苗か理解する。	・よい苗とは植え付け後、早く活着して成長を始める苗であることがわかる。 ・茎の基部が太くて短く、葉身の幅は広長さは短い。また、太くて長い根をたくさん出している。											茎が太くがっちりした苗が良い苗であることに気づかせる。
	よい苗の条件	よい苗の三つの条件を理解する。	・その他のよい苗の条件を考える。 ・以下の3つの条件が大切であるということを理解する。 第一の条件 病害虫におかされていないこと。 第二の条件 苗ぞろいがよいこと。 根がマット状になっていること。 第三の条件 風乾重が大きく充実度が高いこと	6 9		プリント								良い苗の条件を確認させ、特に第3の条件が重要であることを説明し、気づかせる。
開 講	苗作りの重要性	「苗半作」の意味と苗作りの大切さを理解する。	・安定した収量をあげるためにはよい苗を育てる必要があることがわかる。											風乾物の大きい苗は、茎に多くの養分を含んでいるため、活着が早く成長も早い。従って、がっちりした苗がよい米作りにつながることを理解させる。
	本時のまとめ	よい苗の条件についてまとめ、理解する。	・よい苗の条件を確認し、苗作りの重要性を確認する。 ・よい苗を作るためにはどのような管理が必要かを理解する。											

評価から評定を算出する方法

観点別学習状況の評価のための総括の場面としては、(1) 単元(題材)における観点ごとの評価の総括、(2) 学期末における観点ごとの評価の総括、(3) 学年末における観点ごとの評価の総括の3段階が考えられる。

この3段階の具体的方法について、科目「農業科学基礎」を例として以下に示す。

(1) 単元ごとの観点別学習状況の総括・・・単元「育苗」を例として

年間指導計画表をもとに、「単元の評価計画表」を作成する。

(年間指導計画表より抜粋)

	単元	単元ごとの到達目標	学習内容	時間	評価計画				評価の場面・方法
					a	b	c	d	
キ	育苗	良いたねもみを選ぶことができ、その予措について理解をする。また、種まきや育苗管理を確実に行うことができる。	(1)選種	1	6 2	6 4 6 8	7 1	6 5 7 4	プリント 実習観察 " " 考査
			(2)たねもみの予措	1		6 4 6 8			実習観察 "
			(3)苗の育て方	1	6 7		7 3		プリント 実習観察
			(4)良い苗の条件 (生育調査)	1		6 9		7 5	プリント 考査

一人一人の生徒について、観点別に総括することを配慮して、具体的評価項目を4つの観点ごとに整理し総括表を作成する。

<単元ごとの観点別評価の総括表>

氏名	観点	具体的指導項目			
		(1)	(2)	(3)	(4)
	a	6 2		6 7	
	b	6 4 6 8	6 4 6 8		6 9
	c	7 1		7 3	
	d	6 5	7 4		7 5

それぞれの生徒について、評価規準に照らしてA B Cの評価をする。(各評価規準が概ね満足されたものをBとし、それ以上がA、以下がC)

<単元ごとの観点別評価の総括表>

氏名	観点	具体的指導項目				観点別総括評価
		(1)	(2)	(3)	(4)	
	a	B		B		B
	b	B B	B B		C	B
	c	A		A		A
	d	B	B		B	B

	a	B		B		B
	b	B B	B B		B	B
	c	B		B		B
	d	C	C		C	C
	a	A		A		A
	b	B B	C C		C	C
	c	B		B		B
	d	B	B		B	B

(2) 学期末の観点別学習状況の総括

上述した「単元ごとの観点別評価」をすべての単元において実施し、その結果を表にまとめたものが、以下の表である。ここでは、単元ごとの評価Aを3、Bを2、Cを1とし、その平均値の少数第一位を四捨五入した数が3をA、2をB、1をCとして総括した。

<第1学期の観点別評価総括表>

氏名	観点	単元					観点別評価の総括	10段階評価
		ア	イ	力	キ		
	a	A	A	B	B	A	8
	b	A	B	B	B	B	
	c	A	A	A	A	A	
	d	B	A	B	B	B	
	a	B	C	C	B	C	4
	b	C	B	C	B	B	
	c	B	B	C	B	B	
	d	C	B	C	C	C	
	a	B	B	B	A	B	
	b	B	C	B	C	B	

また、観点別評価の総括の結果から10段階評価への置き換えについては、下表に基づいて実施した。

<観点別評価から10段階評価への換算表>

A・B・Cの数	典型的パターン	10段階評価	評定
A 4個	A A A A	10	5
A 3個・B 1個	A A A B	9	5
A 2個・B 2個	A A B B	8	4
A 3個・C 1個	A A A C	8	4
A 2個・B 1個・C 1個	A A B C	7	4
A 1個・B 3個	A B B B	7	4
A 1個・B 2個・C 1個	A B B C	6	3
B 4個	B B B B	6	3
A 2個・C 2個	A A C C	5	3
B 3個・C 1個	B B B C	5	3
A 1個・B 1個・C 2個	A B C C	4	3
B 2個・C 2個	B B C C	4	3
A 1個・C 3個	A C C C	3	2
B 1個・C 3個	B C C C	3	2
C 4個	C C C C	2	2

(3) 学年末の観点別学習状況の総括

ここでは、学年末の観点別学習状況の総括方法の一例を示す。いろいろな総括方法が考えられることから、どのような方法を採用するかは、各学校の置かれた状況等により、全職員の理解のもと、決定されるべきものと考えられる。

<「農業科学基礎」の観点別評価総括表>の一例

氏名	項目	1学期	2学期	3学期	観点別総括評価	10段階評価
	a	A	A	B	A	7
	b	B	A	B	B	
	c	A	A	B	B	
	d	B	B	B	B	
	a	C	B	C	C	4
	b	B	B	C	B	
	c	B	C	B	B	
	d	C	C	C	C	
	a	B	B	B	B	
	b	B	C	B	B	

各学期の評価Aを3、Bを2、Cを1とし、以下の計算式をもとに計算を行う。得られた数値の小数第一位を四捨五入し、その数値が3のときA、2のときB、1のときCとする。

なお、23、31、16は、科目「農業科学基礎」年間指導計画表から算出したそれぞれの学期における授業時数を表している。

$$1 \text{ 学期の評価} \times \frac{23}{70} + 2 \text{ 学期の評価} \times \frac{31}{70} + 3 \text{ 学期の評価} \times \frac{16}{70}$$

君の「関心・意欲・態度」はそれぞれの学期がA A Bであるから、数値にすると、3、3、2となり、総括は以下ようになる。

計算により、2.87となる。これを四捨五入すると3となることからAと総括できる。

$$3 \times \frac{23}{70} + 3 \times \frac{31}{70} + 2 \times \frac{16}{70} = 0.99 + 1.33 + 0.46 = 2.78 = 3 \dots\dots A$$

このように 君の「思考・判断」「技能・表現」「知識・理解」についても同様に処理することで、観点別評価の総括を行う。その結果、君の観点別総括評価はA B B Bとなる。

学年末の観点別評価を上述した<観点別評価から10段階評価への換算表>に基づいて10段階評価に換算する。生徒は、A B B Bであるから10段階評価は7となる。

評価規準作成における参考

(1) 具体の評価規準の作成にあたっての留意点と表現方法

- 留意点
- この項目から、指導方法が自ずから明らかになるか。
 - この項目から、生徒の活動をイメージできるか。
 - この項目から、単元の重点指導項目が推察できるか。
 - 項目の内容と示された観点のあいだに整合性はあるか。

表現方法

関心・意欲・態度

- ・・・から・・・を見いだそうとしている。
- ・・・を活用して・・・をすすんで行おうとしている。
- ・・・することで・・・を考えようとしている。
- ・・・の関係から・・・を調べようとしている。

思考・判断

- ・・・を考察し、・・・の関係を見いだすことができる。
- ・・・の性質から、・・・を導き出すことができる。
- ・・・について調べ、その結果から問題点を明確にすることができる。
- ・・・の結果から、・・・の特徴を明らかにできる。
- ・・・の結果から、・・・を推定することができる。

技能・表現

- ・・・の結果から、・・・の性質をまとめることができる。
- ・・・の結果から、・・・を表にまとめることができる。
- ・・・の記録から、・・・をグラフにまとめることができる。
- ・・・を活用して、・・・を検出することができる。

知識・理解

- ・・・を理解し、その知識を身に付けている。
- ・・・を説明できる。
- ・・・についての知識を身に付けている。

(2) 観点別評価における評価方法

ア 評価の四観点と評価方法の関係

学力を観点別に評価しようとするれば、それぞれの観点に合った評価方法を選択する必要がある。「知識・理解」ならば、テスト法でも十分な資料が得られるが、「思考・判断」や「関心・意欲・態度」となれば、問題解決の過程を観察する、あるいは解決する途上での作品や自己評価なども利用する必要がある。1つの方法に頼ることなく、さまざまな方法を組み合わせて使うべきであるが、観点に合った方法を重視することが大切である。

評価方法 例1

評価方法	関心・意欲 態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
観察法 (行動、発言、発表、実技)				
作品法 (ノート、プリント、作品)				
評定法 (評定尺度、序列法など)				
自己評価法 (自己評価票、自由記述)				
テスト法 (ペーパーテスト)				

最も適した方法、 適した方法、 あまり適していない方法

評価方法 例2

評価方法	内 容
質問紙法	・評価項目に合うような質問事項を設け、生徒に記入させそれを分析する。各質問項目について自由に意見や考えを述べる自由応答式と、質問に対する応答を選択肢として設ける制限応答式のものがある。 ・関心、意欲、判断、学習習慣、観賞についての度合いなどをみるのに適している。
作品法	・作品を通して、関心・意欲・態度、思考・判断、知識・理解など、あらゆる側面の学力を総合的に評価する。また、テストや観察ではとらえにくい技能・表現をみるのにも適している。
観察法	・日常場面での行動・発言・出来事などを観察し、記録を取り評価し指導に生かす方法で、関心・意欲・態度、思考・判断、技能・表現の評価に適している。
評定法	・観察法や作品法と組み合わせて、観察結果や記録をもとに、予め作成された一定の尺度に従って評定する。関心・意欲・態度、思考・判断、技能・表現の評価に適している。
チェック・リスト法	・観察記録の方法として、指導・評価に生かす行動内容を予めリストアップしておき、観察によってチェックしていく方法であり、関心・意欲・態度、技能・表現の評価に適している。

イ 目標に準拠した評価（いわゆる絶対評価）の技法

ノート

従来、ノートは学習者である生徒による単なる「写し」あるいは「練習帳」と捉えられがちであったが、新しい学力観では「思考・判断」や「関心・意欲・態度」などの「見えにくい学力」が重視されるようになったため価値が高まってきた。例えば、ノートを定期的に点検することにより、生徒一人ひとりの変容も知ることができるので、絶対評価の際には、チェックリストを用いるほか、特筆すべきことがあったときには、そのことを補助簿などに記録しておくといよい。

また、ノートの評価では、教師の発信した情報がどのように解釈されているかの情報も含むため、形式的評価、すなわち、生徒の学習の仕方だけでなく、教師の教え方の適否に関するフィードバック情報も得られる。それにより、個に応じた指導が可能になる。

観察

・観察記録

観察法は、すべてに科学の研究において、その出発点となるが、学習評価においてもそうである。

教師は、毎日、毎時、教室などにおいて、一定の生活場面における生徒の学習活動態度を観察している。その観察記録は評価にとって重要な資料となる。教師が作成した学力テストが適用しにくい関心・意欲・態度、技能などの評価では、これが重要な役割を果たすことになる。

なお、観察の対象が複雑であるときには、時間見本法（比較的短い時間、例えば5分とか10分の間、あるいは毎月の初めの5日間などにおこる行動を観察する方法）や行動見本法（観察すべき行動の種類をあらかじめはっきり規定しておき、それらの行動の見本がおこるごとに記録する方法）などが用いられる。

・観察項目

行動見本法では、評価すべき行動の見本を決めて、それを観察・記録することになっている。その例としては、指導要録の「観点別学習状況」の欄であげられている「関心・意欲・態度」の観察項目として示した以下の表が参考となる。

1	～に気づく。	9	～の価値を認める。
2	～に疑問をもつ。	10	～を楽しんでやる。
3	～に好奇心をもつ。	11	～を自分から進んでする。
4	～に注意する。	12	～について目標を高くもつ。
5	～について観察する。	13	～を我慢してでもやる。
6	～について質問する。	14	～を最後までやる。
7	～について調べる。	15	～を実践し、応用する。
8	～に好意をもつ。		

～の部分に各科目の単元の目指す内容・項目を具体的に挿入し、その授業中の生徒の観察・記録し、その結果を単元ごと、学期ごと、さらにはあ学年ごとにまとめれば、それぞれの時期の総括的評価の資料として役立つ。

このように観察項目を立てることにより観察する人の先入観や偏りを防ぐことができる。自然に観察するだけでは、観察者の偏見や先入観が入り、判断が主観的になりやすい。

なお、観察では表面に現れた行動（顕型）だけにとらわれなくて目に見えない部分（原型）にまで目を通すことが必要である。「顔で笑って心で泣く」という場合もあるから、ただ漫然と生徒の行動を見ているだけではいけない。正しい評価をするためには、人を見る目を養うことが大事である。

質問紙

これは、調査しようとする項目について、あらかじめ細目を印刷しておき、これを生徒に与えて、各自に記入させる方法である。記入の方法には、例えば、上表の項目を質問の形にし、「はい、いいえ」のどちらかに をつけさせるもの、あらかじめ用意した数個の答えの中から該当すると思うものに 印をつけさせるもの、文章または語句で答えさせるもの、などがある。

質問紙法は、集団でも実施できるので便利であるが、質問の内容があいまいであったり、質問の文章が難しかったりすると、生徒が判断できないことがある。また、質問がある一方的な答えを暗示するようなものであったり、あるいは一方を他方より多く選ばせるようなものであってはならない。さらに、その答えによって、社会的、道徳的な評価をさせると思うような質問もよくない。質問の内容は、できるだけ簡単で、具体的にし、答えも簡単に記入できるようにすることが大事である。

レポート

レポートは、何らかの課題を与え、文章の形で回答を求めるものである。生徒の思考力や論理力、態度などを評価するときに用いられる。これらの観点についての実態を深いレベルで捉えることができるという長所がある。

絶対評価として利用する際には、あらかじめ、評価の観点を作成しておき、A：優れている、B：ふつう、C：劣っている、の三段階で評価し、あとでA～Cに3～1点を割り当て、合計するという方法である。

評価の観点としては、作成者が課題の目標との関連で決めるが、形式的評価（文字の使い方、言葉の使い方、構成の仕方、文の長さや句読点）と内容的評価（着眼点、論理性、構成力、表現力、説得力、創造性、意欲）に分けると、採点しやすい。また、複数の評価者により評価を行い、その平均を求めると客観性のある評価が可能である。

作品

作品には、作者の意図によって表現された芸術的作品、造形物から文学作品、音楽作品まで幅広い。これらはいずれも、生徒の感情や態度が投影されているため、ノートと同様、評価対象としての価値が高いものとなっている。作品を絶対評価で評価するには、チェックリストが向いている。しかし、その際、「作品そのものに対する評価」と「作品による作者の評価」を分けて考えることが大切である。とくに、「新しい学力観」では、作品による作者の創造力や美的感覚、技能などの能力面ばかりでなく、学習に対する関心・意欲・態度、思考力、判断力、表現力も重視されるので、それらを実評価項目に含めるとよい。

参考文献

- 1 北尾倫彦、角田陸男編集 「観点別学習状況の新評価基準表－平成14年度版 中学校理科」
図書文化社
- 2 辰野千壽 著 「学習評価基本ハンドブック－指導と評価の一体化を目指して－」
図書文化社、2002年8月改訂増補
- 3 藤岡秀樹 「目標評価（絶対評価）とは」
『指導と評価 vol.48, No.2,』 2002, p 4 ~ p 7. 図書文化社
- 4 北尾倫彦 「目標評価の手順と課題」
『指導と評価 vol.48, No.2,』 2002, p 8 ~ p 12. 図書文化社
- 5 長澤俊幸 「目標評価の標準学力検査」
『指導と評価 vol.48, No.2,』 2002, p 23 ~ p 26. 図書文化社
- 6 中村隆 「授業の工夫改善につながる学習評価－1単位時間の観点別学習状況の評価の在り方」
京都市立永松記念教育センター研究報告
- 7 「新学習指導要領とこれからの評価－指導を授業に生かすために－」川崎市総合教育センター研
修資料、平成13年11月
- 8 「評価規準、評価方法等の研究開発（報告）」国立教育政策研究所教育課程研究センター
平成14年2月
- 9 「児童生徒の学習と教育課程の実施状況の評価の在り方について（答申）」
文部科学省教育課程審議会 2000年12月